

# 歌い続けた小唄 CD化も

# 立教大生海の家 60年

立教大学広告研究会の学生が夏の間、館山市の北条海岸前に開く海の家「キャンパスストア」が、開業から60年を迎えた。学生が運営する海の家としては全国で最も古く、今年も建物も改装しおしゃれに生まれ変わった。同研究会では節目を記念し、学生がこの地を訪れた際に歌い続けてきた「館山小唄」をCDにし、地元住民に贈った。(羽田和政)

同ストアは1953年、森永製菓の働きかけで「森永キャンパスストア」として開業した。この年、早稲田大が南房総市勝山に、明治大が鋸南町保田に、慶応大が神奈川県葉山町に海の家を構えた。戦後の学生たちが地域の中での役割や社会貢献の在り方を探る企画だった。67年、森永製菓がスポンサーから撤退後は学生の自主運営となり、学生たちによる海の家も立教だけが続けてきた。

## 館山 今年も建物改装

りていたキャンパスストアは65年、約23平方分を大学が購入。昨年残りの約50平方分も取得し、建物は寄付金600万円を活用して改装した。従来は昔ながらの海の家らしく砂地にテラス席などを置いていたが、改装後は床を張り、2階にテラス席を設けるなどとして、おしゃれな喫茶店風に生まれ変わった。

毎年、3年生を中心に運営し、研究会の部員は、一度は足を運んで手伝うのが決まり。今年も7月13日の開業以来、約90人いるメンバーが交代で館山市内で合宿しながら、今月28日まで営業する。

今夏はストアで提供する飲食メニューも刷新した。定番のカレーライスなどに加え、地元名物のメンチカツを挟んだ「立教×館山サンド」を考案。ハンバーグなどに添える卵も館山産のものにした。

第60代店長の五十嵐敦さん(20)(社会学部3年)は「メニューや運営を考えるのが面白い。社会勉強のためでもあるが、館山のことも分かってきたのがうれし

い」と話す。昨年の売り上げは約130万円。「今は(改装して)一からのなので、さらに盛り上げたい」と意欲を見せる。

また、60周年記念事業として取り組んだのが「館山小唄」のCD化だ。192年に西條八十作詞、上げんと作曲で発売された元発揚の歌で、盆踊りや祭りでも盛んに歌われてきた。しかし、現在では館山小唄を歌える地元の人ほとんどいないといい、立教大の学生が合宿歌のようにして歌い継いでた。

研究会では、館山小唄地域に復活させようとD化を企画し、市内の謡団体「花友会」の協力収録した。花友会は「ご地ソングとして再び定着させたい」と立教生へ感謝する。

同研究会は11月9日に学がある東京・池袋でキャンパスストア60周年記念パーティーを開く計画。会場館山小唄を披露するほか来年には館山市内でも発表会を開く予定だ。



屋上にテラス席が設けられるなど、一新されたキャンパスストア。看板には「60th」の文字も